

Results.講習会

2026年8月
 株式会社アイティ総研

■ 最新需給状況

■ 新機能「調達デスクトップ」

■ 株式会社 テクニケーションシード
代表取締役会長 高橋俊介 様

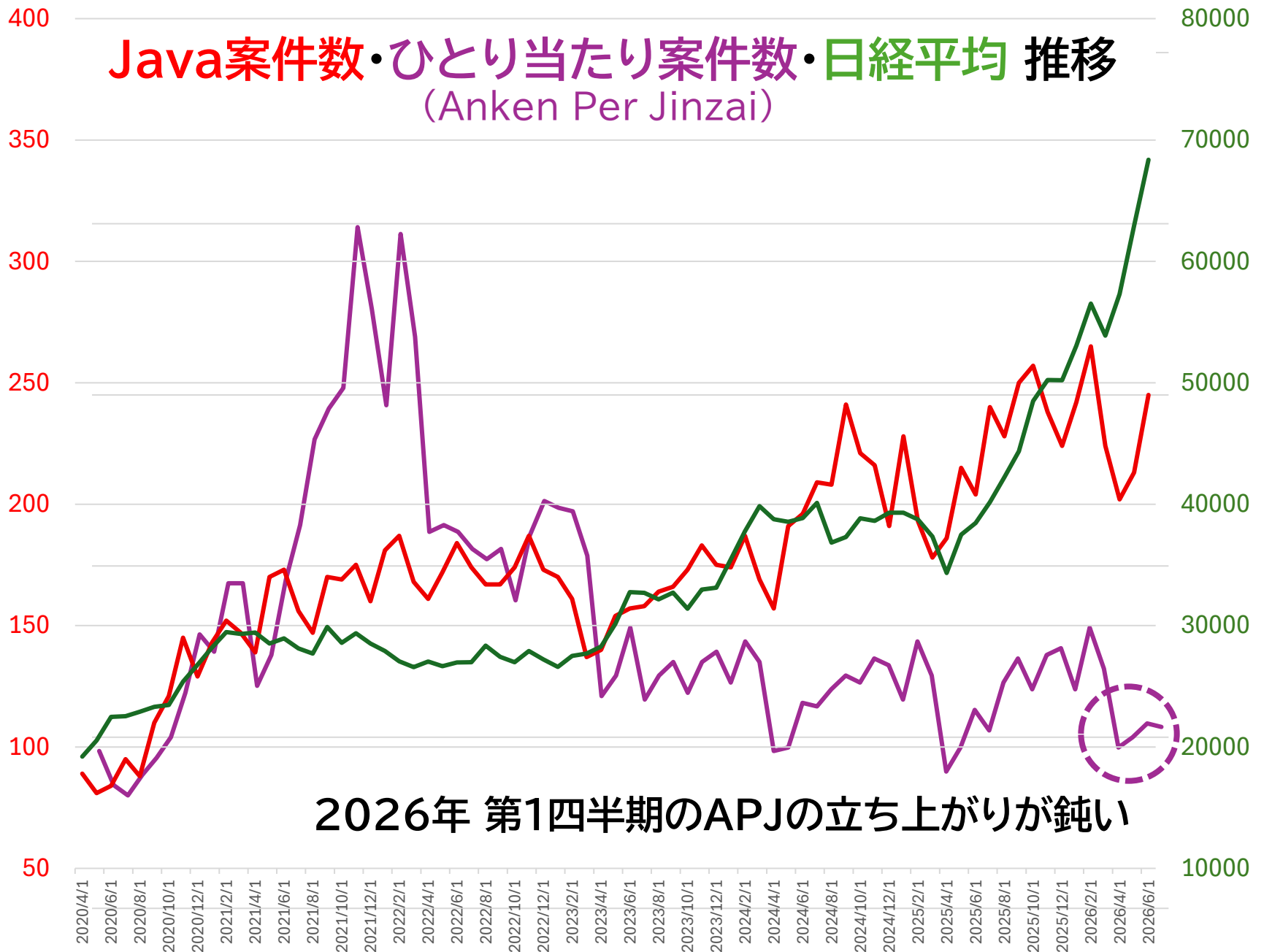
最新需給状況

2026年の特徴

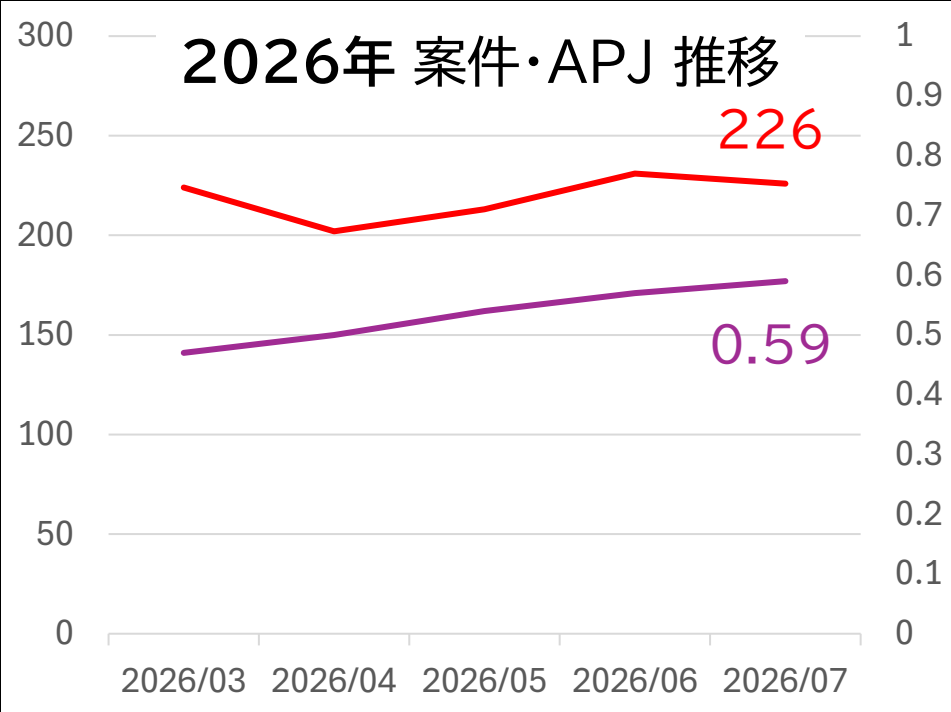
案件の立ち上がりが鈍く、APJ上昇は鈍化
例年と比べて市況悪化・景気鈍化の兆候を示す

APJ = 人材一人あたり案件数 (anken per jinzai)

Java案件数・ひとり当たり案件数・日経平均 推移 (Anken Per Jinzai)

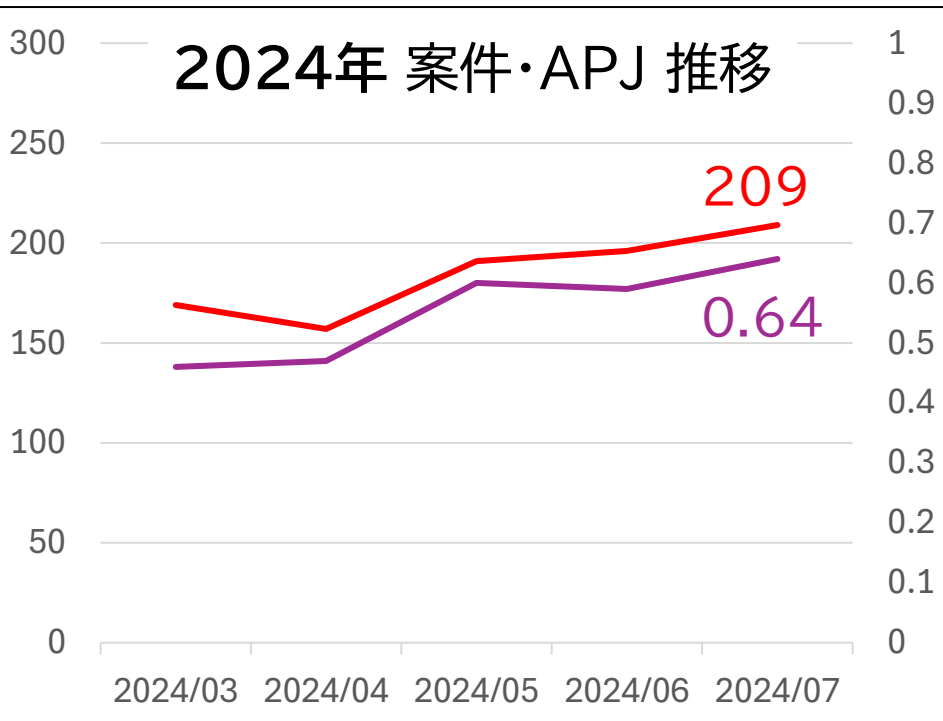
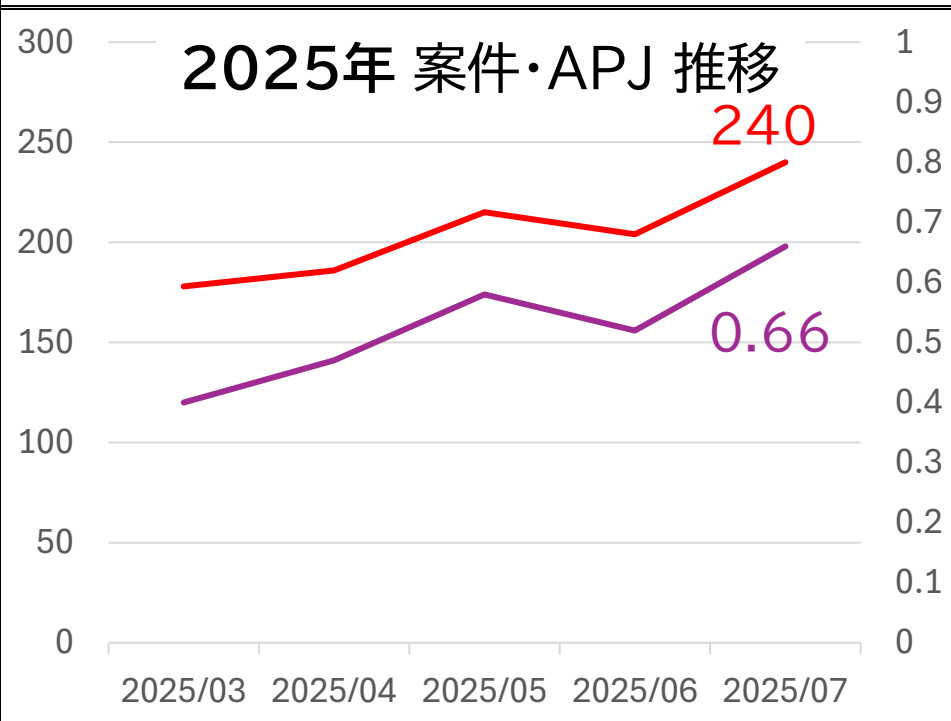


2026年 第1四半期のAPJの立ち上がりが鈍い



案件数は横ばい
APJは3年間で最低

例年は、
第2四半期に向けて案件が増加し、
APJが上昇する

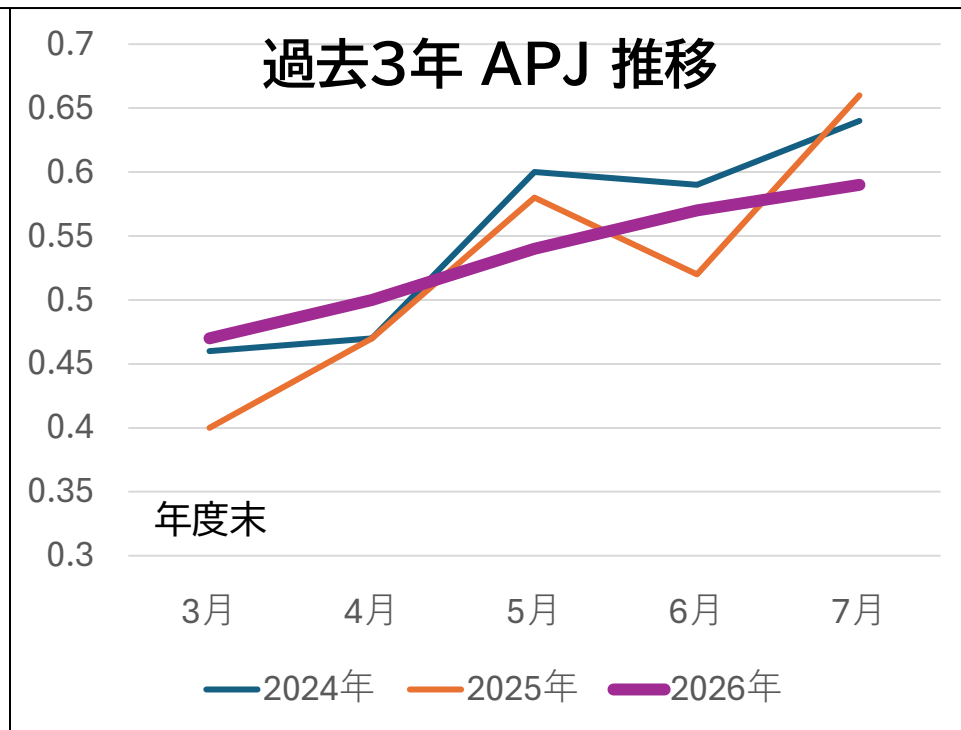
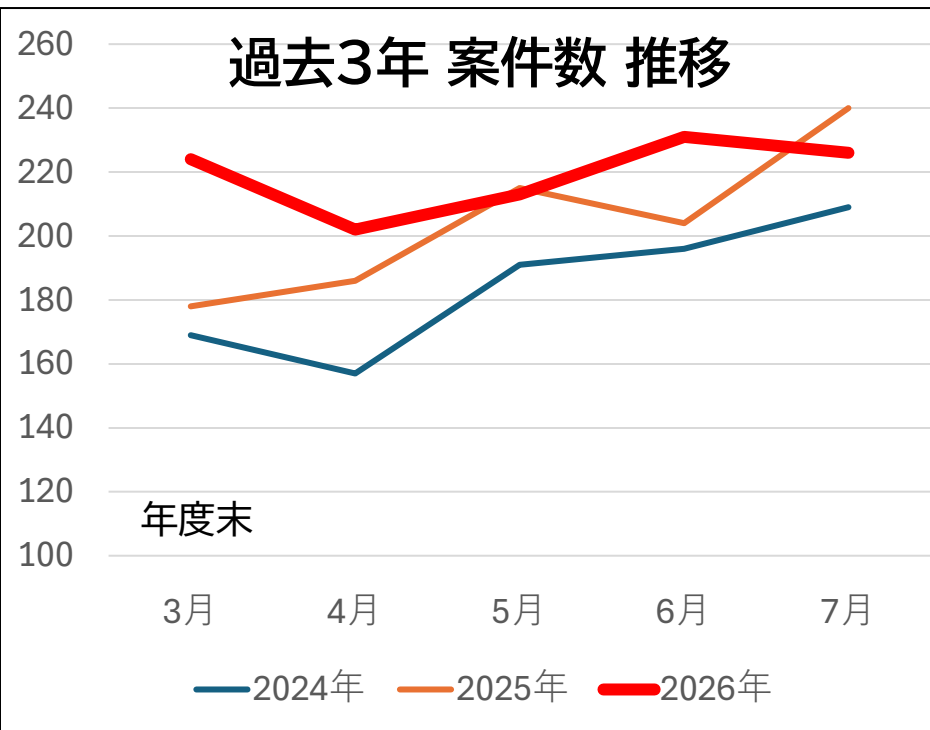


例年に比べて、年度末の案件は多かったが 4月以降、伸びが弱い

7月に入って案件増加がみられない

過去2年と比べて低く推移

待機者が発生しているとの情報を肯定する動き



米イラン戦争が2月28日からであり、
資源価格高騰を背景とした、先行き不透明感が原因か？

景気拡大、半年で19ポイント減、予想慎重姿勢に、物価高逆風

(一般社団法人共同通信社)

今後の国内景気を拡大基調と見込む企業は全体の51%で、1月まとめの
70%から半年で19ポイント減少した。横ばい予想は25%から38%へ増
加した。中東情勢悪化などの影響を受けた物価高騰が逆風となり、景気の
先行きに慎重な見方が増えている。

過去の類似事例

ロシア・ウクライナ戦争

2022年のロシア・ウクライナ戦争では
本年同様、上期の案件が増加しなかった。

ただし、下期に入り、上期の減少分を上回る案件増加になった。

Results.Magazine.2026Q1

気になるデータ

Results.Magazine.2026Q1 Summary

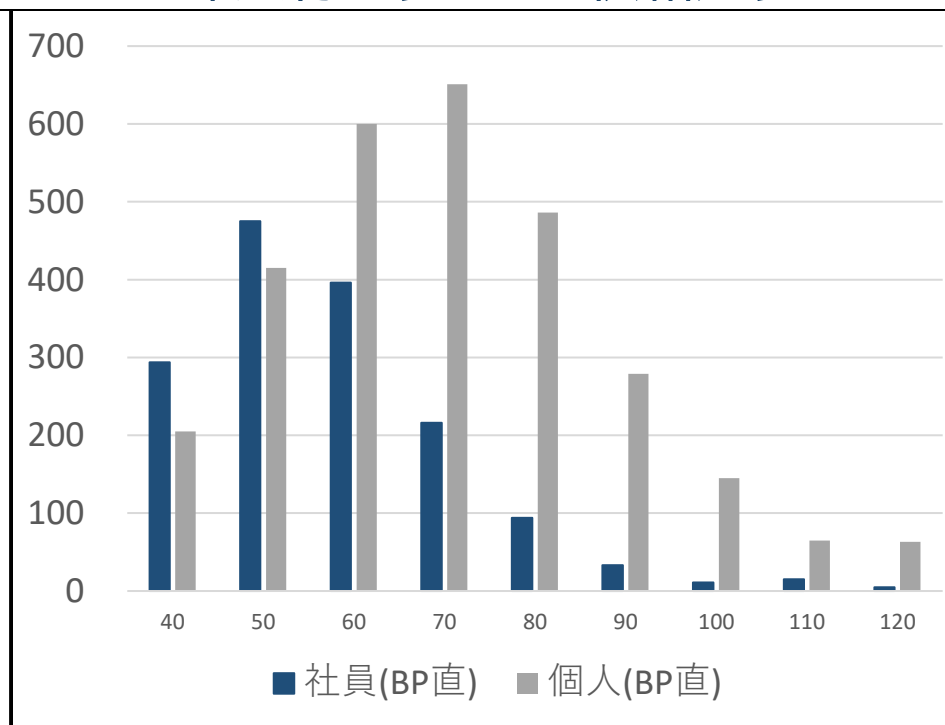
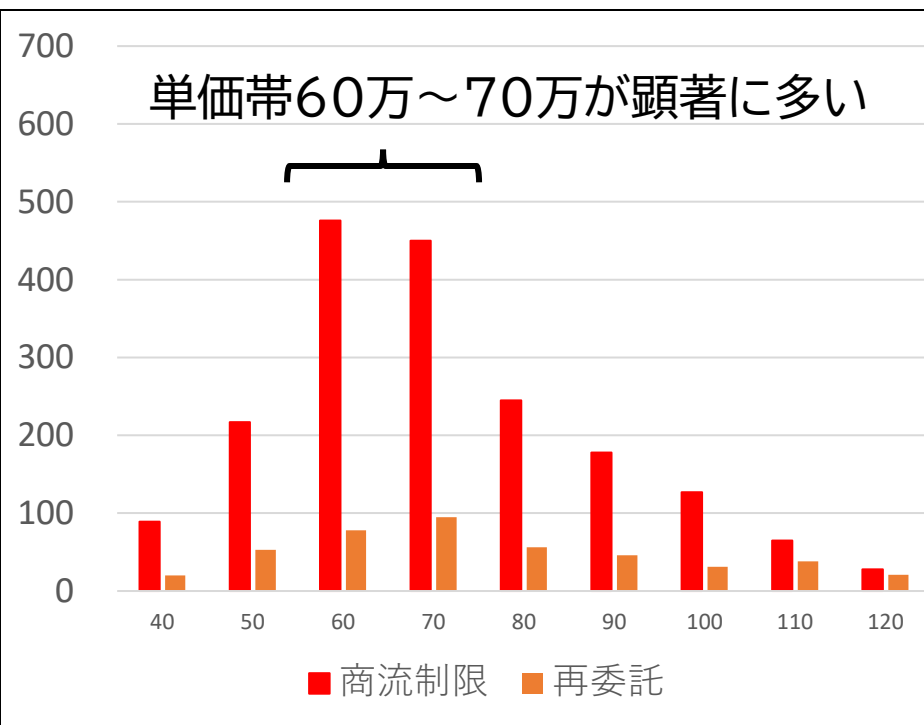
- 「商流制限案件」の著しい増加は継続
- 開発・インフラ問わず、APJの低下傾向が続く
特にインフラのAPJ低下が著しい
原因は、大量人材供給
- 即日入場できる人材提案＝待機人材が増加
(次項以降で解説)

単価帯ごと、即案件・即人材

- 案件は、60万から70万の単価帯で「即」案件が多い
- 社員は、50万前後で「即」人材が多い
- 個人事業主は、60万以上で「即」人材が多い

即案件が多い ⇨ 需要が強い

即人材が多い ⇨ 供給過多



人材属性強弱



弱い属性



強い属性

	属性	6月	7月	増減率
全体 提案数	社員	5,560	4,563	-18%
	個人事業主	6,537	7,061	8%
「即」人材 提案数	社員	1,696	1,753	3%
	個人事業主	3,124	4,023	29%
	外国籍	481	489	2%
	ジュニア _(u25)	351	463	32%
	シニア _(o55)	608	820	35%
	リモート	2,708	3,367	24%
	地方	1,077	1,336	24%

特定属性への需要集中

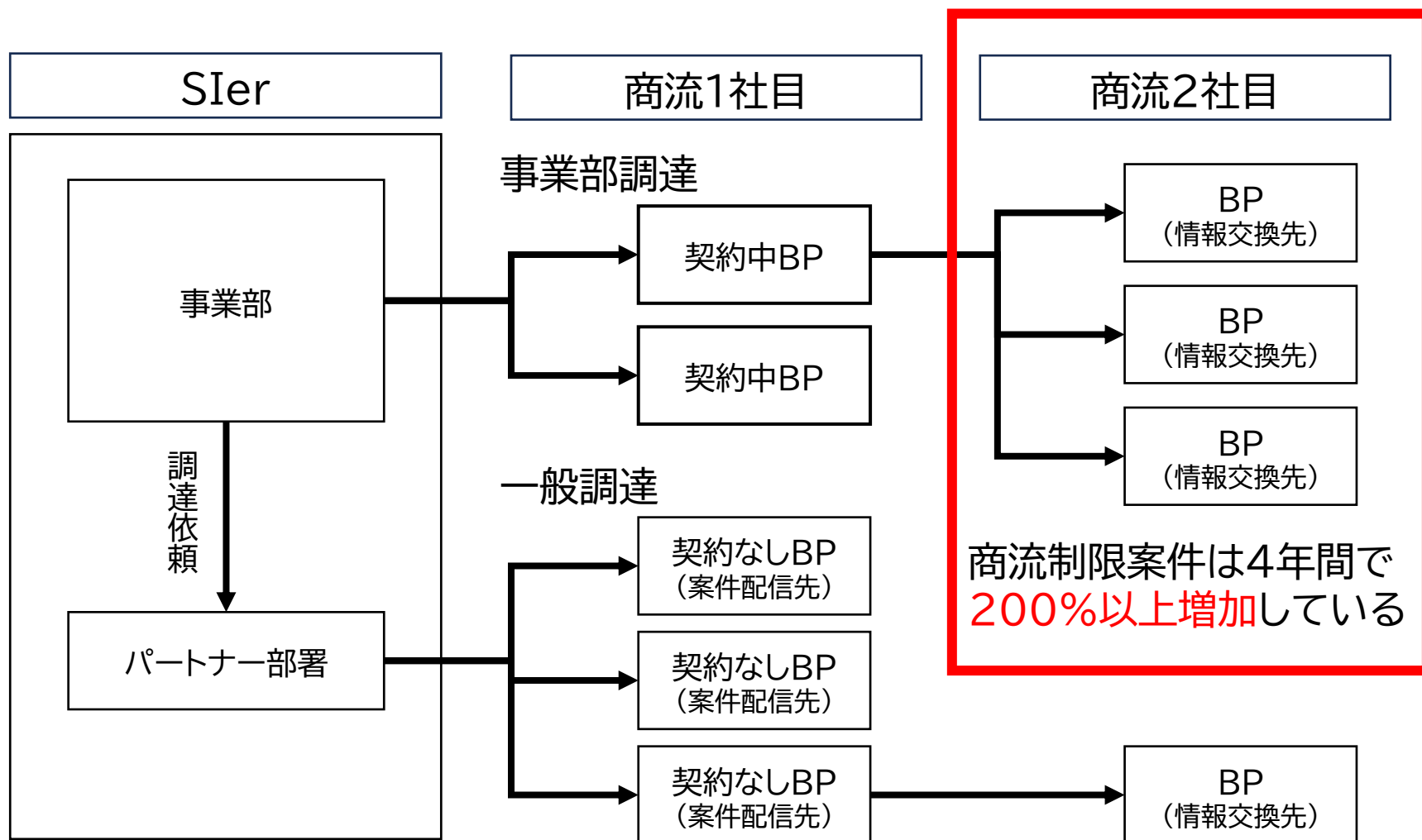
「社員」「経験5年以上」「50才以下」「70万前後」「オンサイト」

社員 「即」人材の増加率が小さい (3%)

社員 提案数が減少している (▲18%)

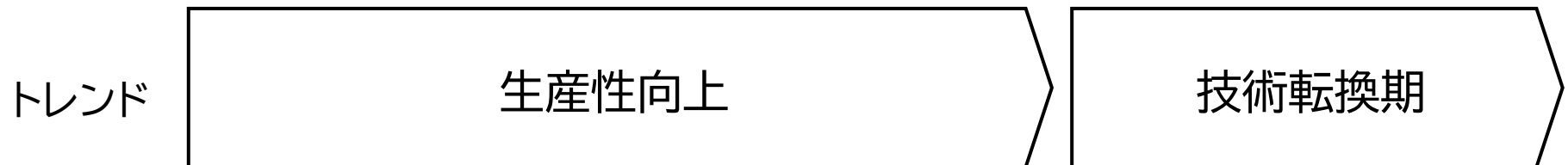
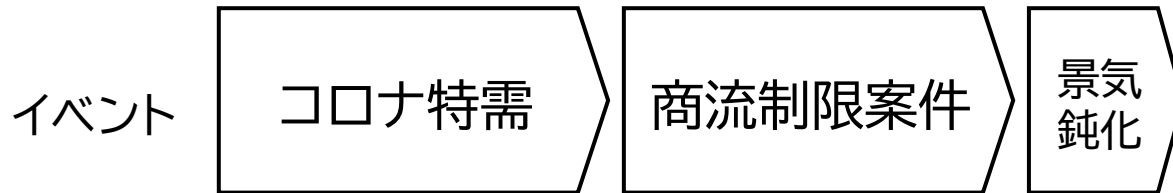
2022年以降、「商流制限案件」が200%以上増加

赤枠商流で参画できる人材に需要が集中



近年の動きと近い将来

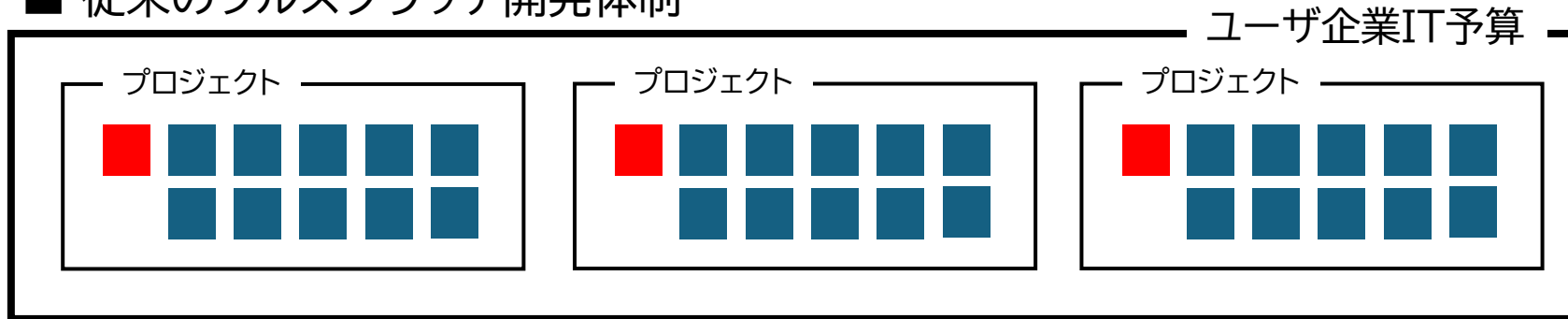
	2021年	2023年	2026年 上期	2026年 下期以降(予想)
需給	案件 >> 人材	案件 = 人材	案件 =< 人材	案件 >> 人材



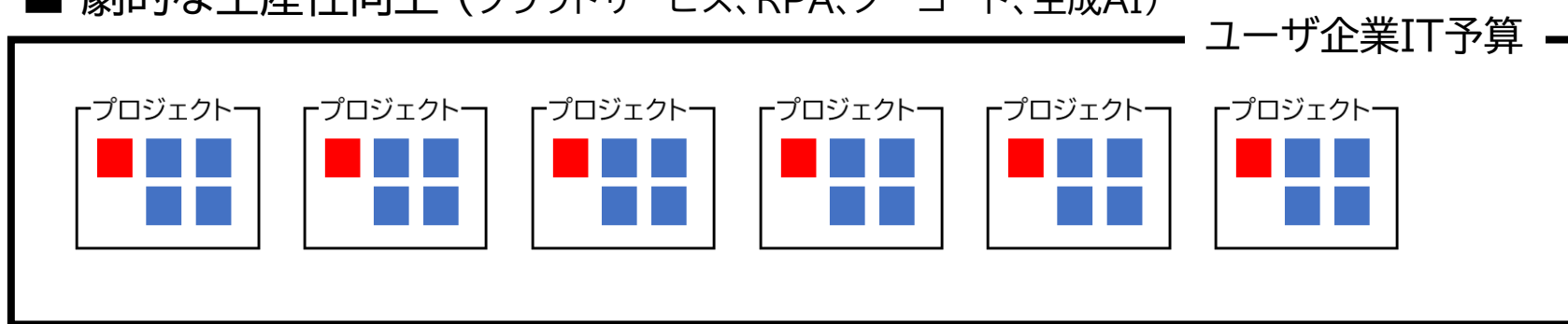
近年の動き (生産性の向上)

生産性向上による開発体制の変化

■ 従来のフルスクラッチ開発体制



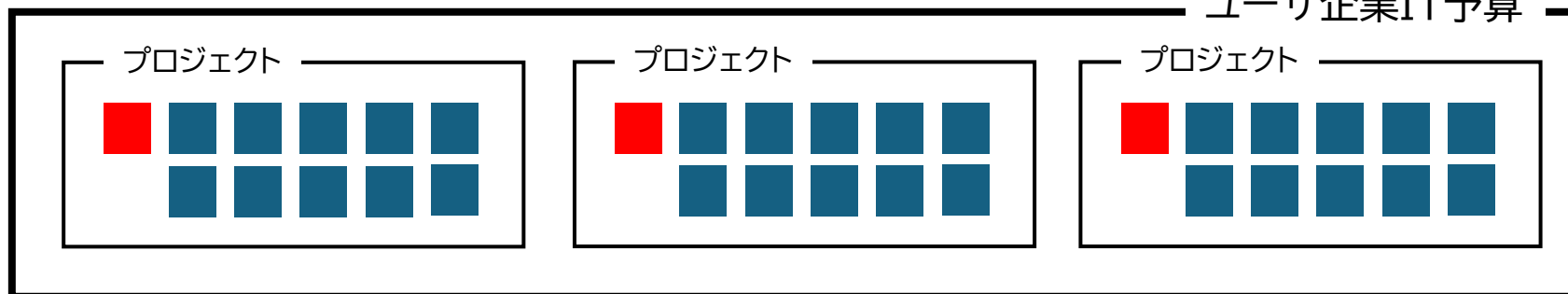
■ 劇的な生産性向上（クラウドサービス、RPA、ノーコード、生成AI）



	従来のフルスクラッチ	劇的な生産性向上
PM・上級SE・業務有識者 高度・専門性人材	3	6
作業者	30	24

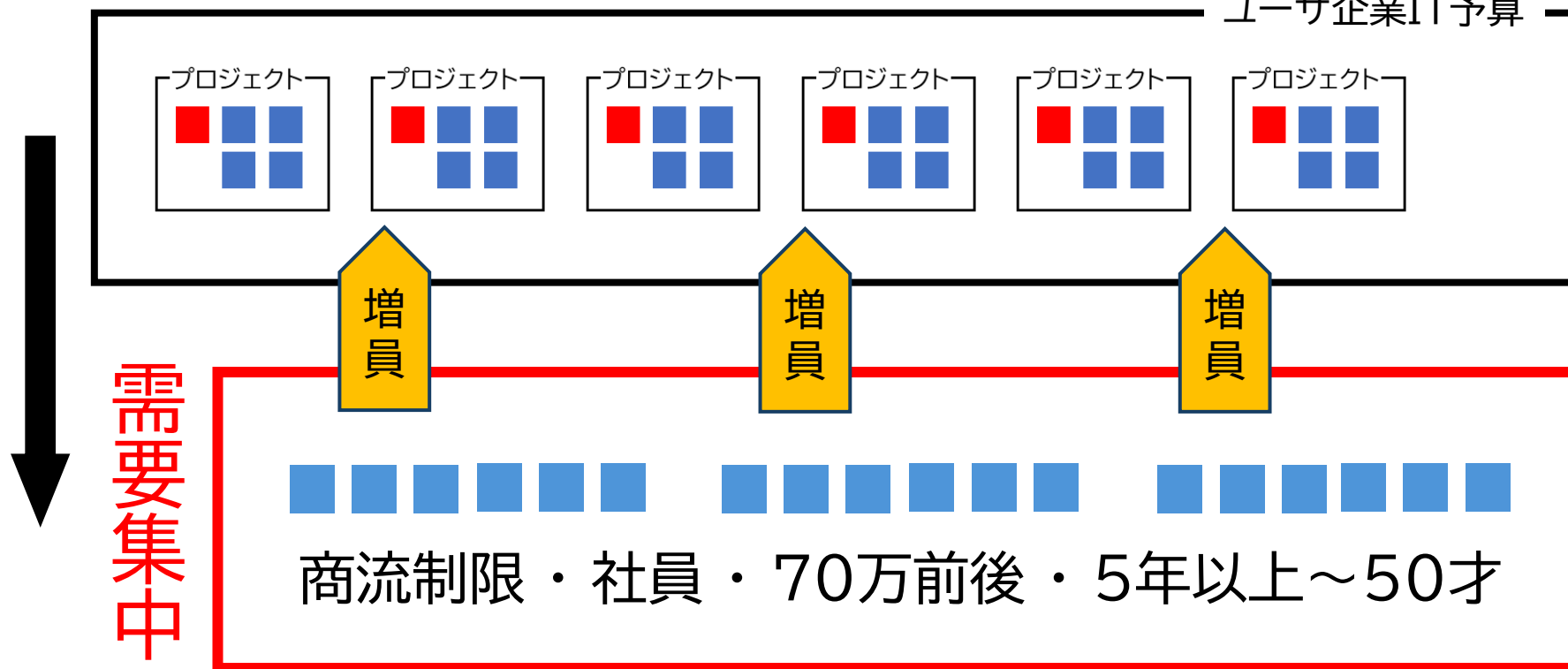
■ これまでのフルスクラッチ開発体制

ユーザ企業IT予算



■ 劇的な生産性向上（クラウドサービス、RPA、ノーコード、生成AI）

ユーザ企業IT予算

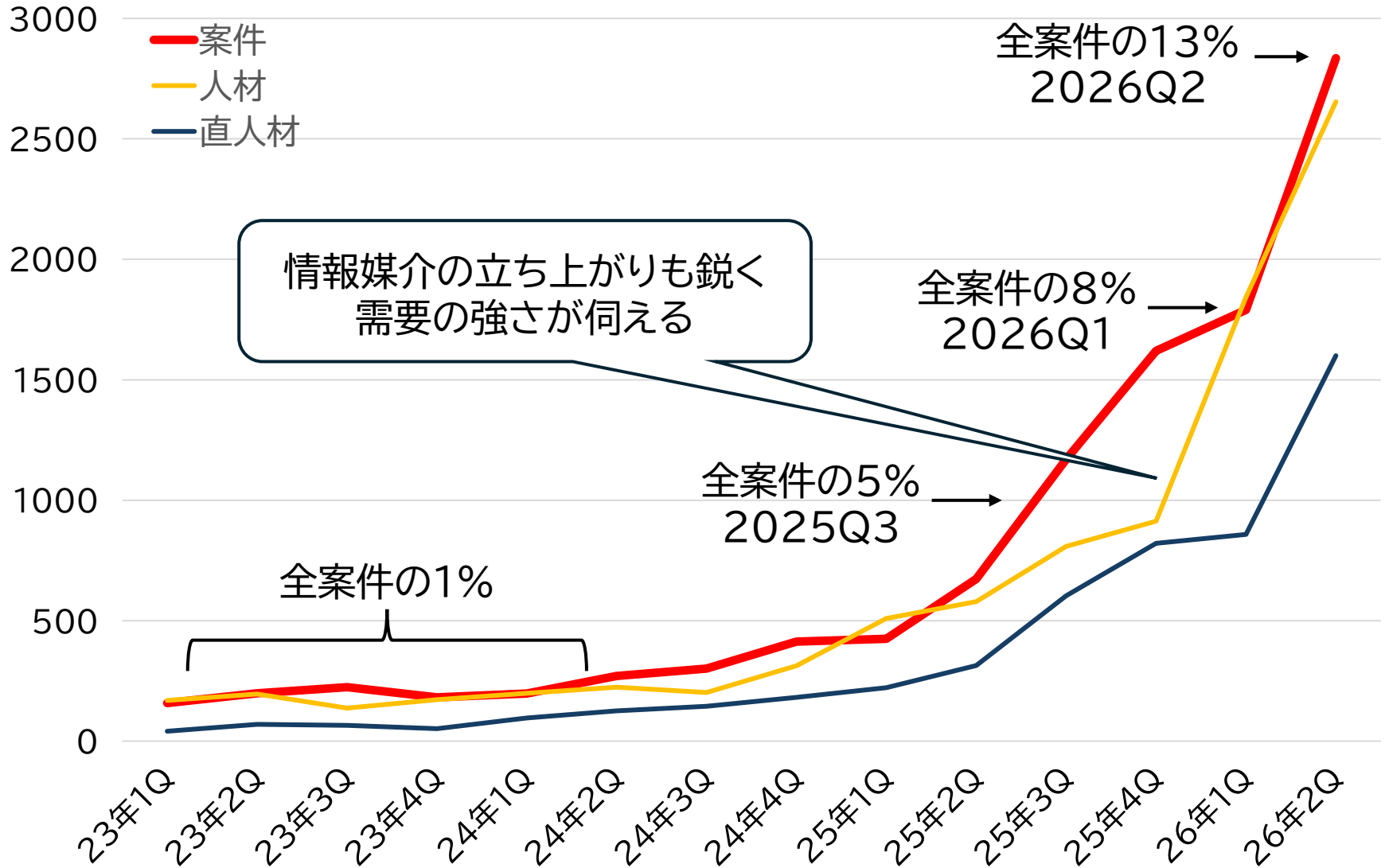


近い将来
(技術転換期)

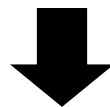
AI開発 案件/人材 状況

2025年下期頃から**加速度的増加**

AI, Claude, Gemini, Copilot, GPT, Llama, DeepSeek, Grok, Cursor, Codex

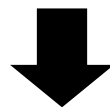


事業会社は、AIをはじめ、
新たなテクノロジーへの適応
を求められている

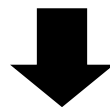


(現在地)

需要が創出される → 市場拡大



特定属性人材への需要集中は今後も続く



特定属性人材の枯渇が課題になる

(特定属性から外れた人材の案件参画も問題になるかもしれない)

技術転換期に必要とされる人材

「社員」「経験5年以上」「50才以下」「70万前後」「オンサイト」



読み替えると

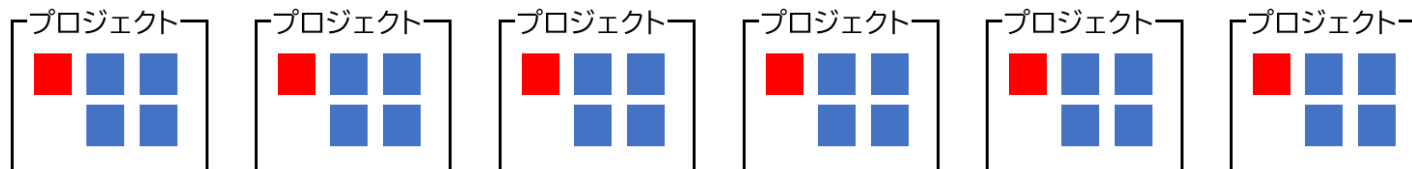
チームワーク・技能習得・積極性・広範な知識
(コミュニケーション)

【参考】

次にくる市場縮小期の影響は大きなものになる？

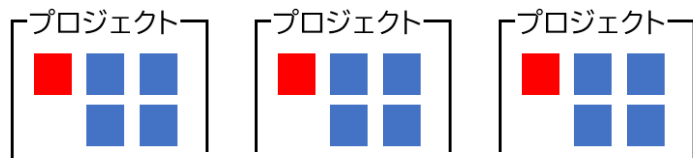
市場縮小期に起こること

ユーザ企業IT予算

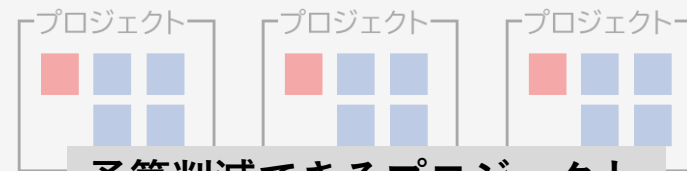


生産性向上で新たに創出されたプロジェクト

ユーザ企業IT予算



予算削減できないプロジェクト



予算削減できるプロジェクト

	生産性向上後	〇〇ショックが起こると
PM・上級SE・業務有識者 高度・専門性人材	6	3
作業者	24	12

「規模の柔軟性」は、すべてのソフトウェア企業で重要
生き残ってきた企業 = 市場縮小期を乗り越えた企業

規模拡大にはM&Aが有効

規模縮小には多くのSIerが目標値としているBP比率1:1が必要

新機能 「調達デスクトップ」

調達デスクトップが目指していること

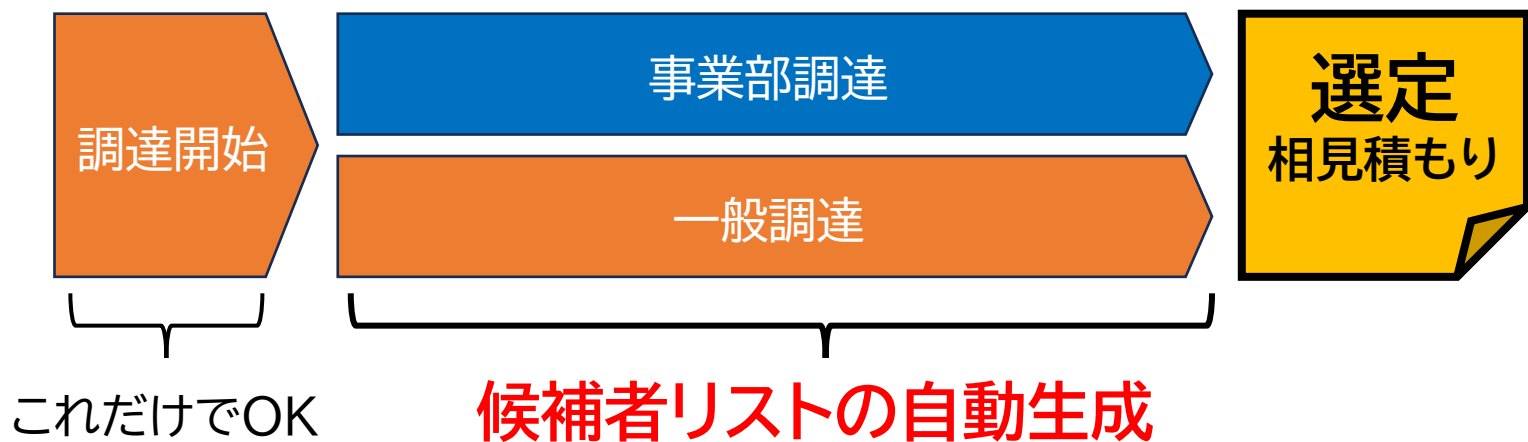
複数経路の人材を、
スキルシートを読み解かず、
候補者を選定

他産業で類を見ない特殊な調達

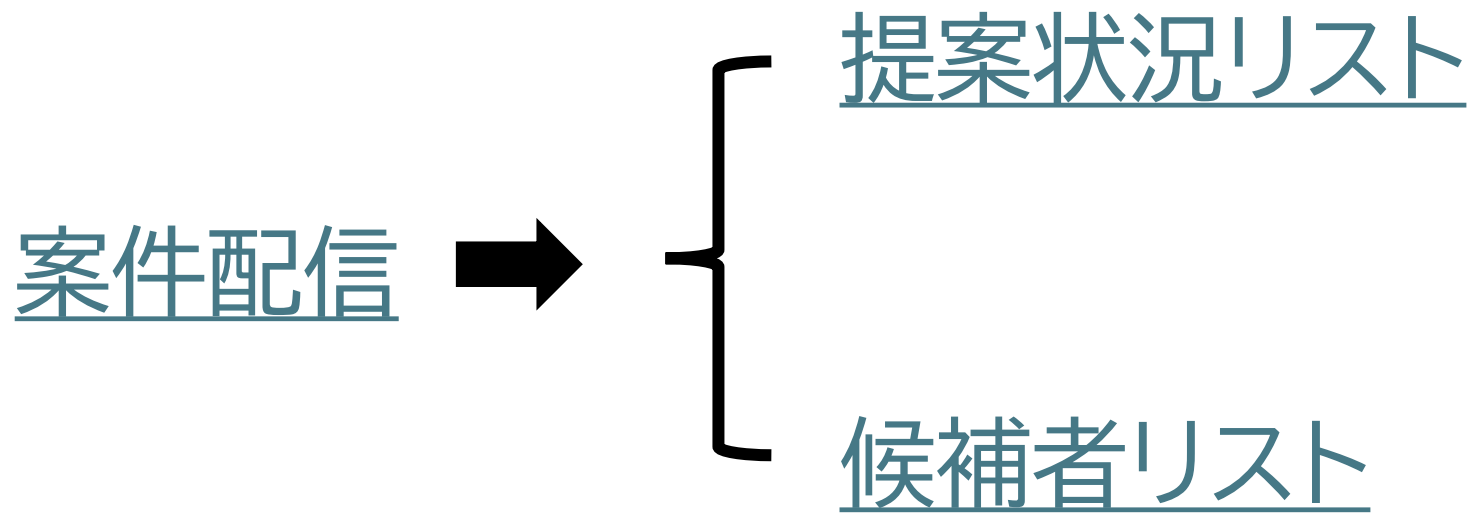
■ 従来の人材調達



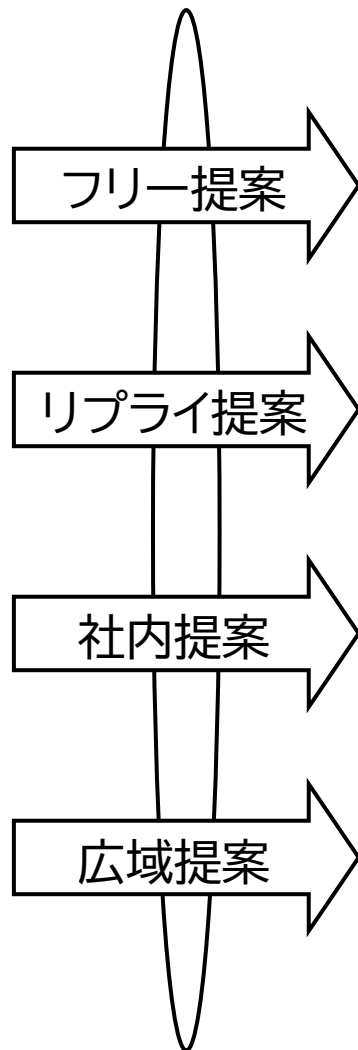
■ 調達デスクトップによる人材調達の一般化



案件配信を契機に開始



調達デスクトップ・候補者リスト



経歴グリッド	
人材(1)	
人材(2)	
人材(3)	
人材(4)	
人材(5)	

高スコア

低スコア

評価試験アンケート結果

7社 12名

ご協力ありがとうございました。

調達デスクトップに合致する熟語を複数選んでください

便利
(10)

期待大
(8)

省力化
(5)

直感的
(5)

快適
(4)

革新的
(3)

要改善
(2)

簡単
(1)

高精度
(1)

普通 (0)

微妙 (0)

従来の調達と、調達デスクトップを比較

	アンケート	評価 平均	標準 偏差
1	経歴の長さや欠落期間を読み解かなくていい	4.5	50
2	経歴確認にかかる時間が減った	4.4	49
3	候補者の比較が容易	4.4	49
4	優先して対応すべき候補者が分かりやすい	4.3	64
5	形式の異なる現物スキルシートを統一された形式で確認できる	4.3	90
6	<u>技術系統</u> による候補者評価が出来る	4.2	60
7	案件配信するだけで候補者リストが自動生成される	4	89
8	アピールポイントや資格情報がすぐに確認できる	3.8	87
9	技術系統を各社ごとにカスタマイズできるらしい	3.6	66
10	アライアンスパートナーの人材提案を候補者に含めることが出来る	3.6	92
11	調達経路毎に候補者を絞り込める	3.5	102
12	現物スキルシートを開かない、または開く機会が減った	3.5	81
13	解析不能スキルシートを見逃すことが無い	3.3	78



共通評価



評価分散

従来の調達と、調達デスクトップを比較

年表が見やすく、スキルの選定もいくつもできるので便利、ラベルの文章修正、個別削除が出来たらもっと便利

エンジニアのスキル比較という機能はあまり目にすることがないので、今回の新機能追加はとても良いとおもいました。

各評価スキル要件に重要度、最低月数の閾値を持たせられるのが良かったです。

あったら良いなと思っていた機能なので、率直に有難いです。まだ使う側としての経験が不足しているますので、嬉しかったポイントを発見したらお伝えさせていただきます。

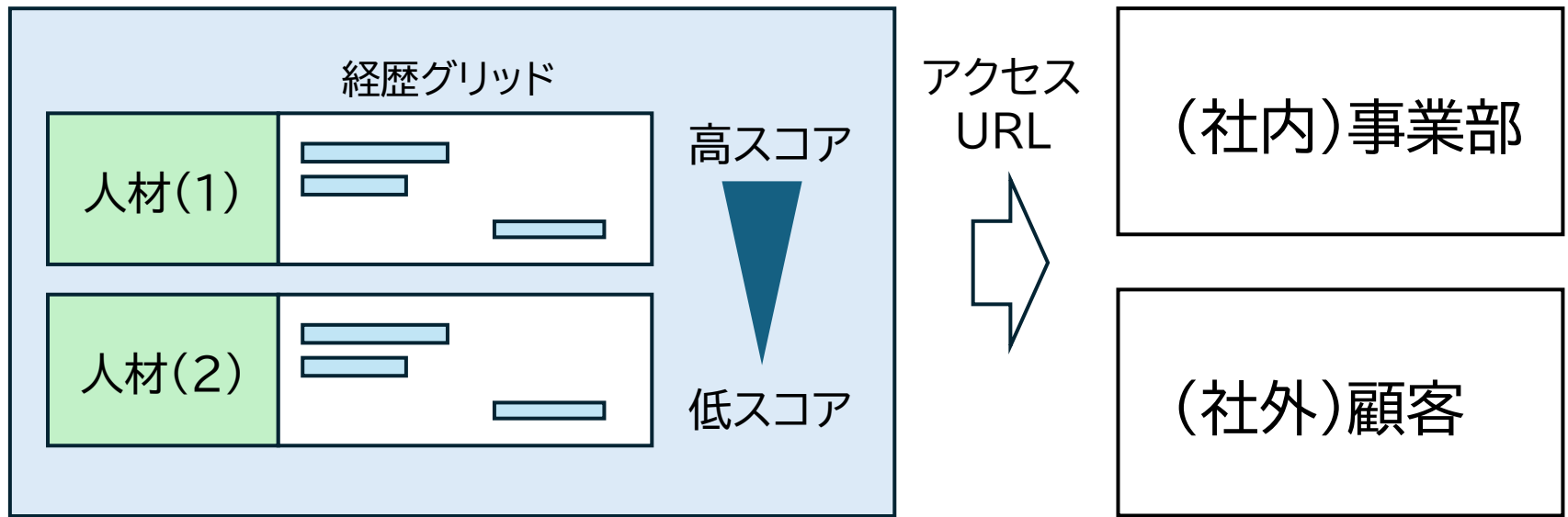
候補者面談時における該当経歴への参照が容易な点

元メールをダウンロードせずとも、スキルシート(ボタン押下)にてダウンロードできるところ

ワンタイムアクセスキー

Results. アカウント非保有者に、
選定済みリストのみ、一定期間アクセスできるURLを発行

選定済みリスト



ワンタイムアクセスキーで選定済みリストを展開

	アンケート	評価 平均	標準 偏差
1	本機能がリリースされたらぜひ使いたい	4.1	54
2	案件にマッチした候補者リスト(経歴グリッド)で人材のアピールにつながると思う	3.9	94
3	自分の作業が大幅に省力化できると思う	3.9	83
4	スキルシート確認依頼に対するレスポンスが向上すると思う	3.8	87
5	事業部または顧客の負担軽減になると思う	3.7	46



共通評価



評価分散

表示ミス、漏洩が少し気になるが、気を付けて設定すれば共有が簡単になりそう！

本機能使用して頂くための提案先への啓もう活動が必要と感じる。

有効期限が短いことが予想されるため、事業部側の負担になる可能性がある一方で、調達スピードは向上すると感じました。

一度説明をしてからでないかと先方に伝わりづらいと思いますが、慣れていただければよいのかもしれません。

情報展開する対象顧客は自社内で基準を決める必要があるかと考えております。
また、現場の社員に対しても表示項目のマスキング設定等があると助かります。

調達ツールとしての使用がメイン使い。
各必須スキル期間が一目で分かりその箇所の経歴を探す事無く参照できるのが便利だと感じた。
その一方でプロジェクトのスキル以降の条件を一度設定して「選定リスト」を動かしてしまうと条件編集が不可。
(今までのラベルや記録が初期化される)や、AI解析の精度にムラがあり現物スキルシートを参照して確認しなければまだ提案できないとも感じました。

総合表示機能がよい！

一覧をそのまま事業部展開できることが助かる

事業部からのレスポンス(面談依頼など)が管理できると助かる

現状の弊社の人材マッチングのフローにおいては、ワнтаймアクセスキーによる候補者リストがAIでうまく読み込めれば、より作業効率が上がると感じました。

これからの運用に対して、力の入れ具合によって効果がはっきりするよう感じられる。

気になったところ

	アンケート	評価 平均	標準 偏差
1	現物スキルシートを見ないと不安	3.4	128
2	評価スキルの設定が難しい	2.8	87
3	見た目が普通のスキルシートで解析誤りが多い気がする	2.6	66
4	初回リスト生成に時間がかかるのが気になる	2.6	102
5	候補者の並び順に違和感があった	2.4	111
6	期待した候補者が上位に表示されないことがある	2.3	90



共通評価



評価分散

スキルシートのウィンドウが動かせたら、自由度(見方が)上がりそう。
総合表示をデフォルトでも良さそう。

調達デスクトップの良さのアピールをどのようにしていくかが重要かと思います。

評価スキルを入力時に右側に出てくる候補スキルについて、その候補をボタン選択で
評価スキル欄に追加できると尚良いです

初心者向けにヘルプ用の簡易手順のリンクがあると良いかと感じました。

プロジェクト作成(調達デスクトップ開始)後、追加でスキルを設定(又は変更・削除な
ど)した際、再度、調達デスクトップ終了➡開始をするとのことだが、その際、今まで追
加・作成した評価ラベルがクリアーされないようにして頂きたい。

調達デスクトップを使う前に、いかに適合検索(プロジェクトエディタ)を使いこなせる
かが肝かなと思いました。

まだまだこれから育てていくものだと思う。

全体コメント

この度はテストさせていただきありがとうございました。
精度アップ(検知ミスがなくなる)次第で仕事がより一層早くなると思います。

Results.利用の頻度によって新機能の評価も変わってくると思います。
利便性や効率化といった工数削減面でまずはアピールしResults.そのものの利用頻度や理解深めて頂くことが重要かと思います。
使いこなせるようになれば非常に役に立つサービスだと思います。
引き続きのブラッシュアップ期待しています！！

技術経歴の見える化によってより比較検討がしやすくなったと感じております。
引き続き今後の技術者調達に活用させていただき、気になった点については共有させていただきます。

Results.はメールの案件/人材検索で大きく工数削減ができていますが、まだ使いこなせていない機能もありますのでもう少し使い込みたいと思います。

バージョンアップ版も楽しみにしています！

提供時期と形態

提供時期	2026年9月24日 ~
利用料	月額利用料に含む S: 1,500 スキルシート/月 A: 1,000 スキルシート/月 B: 500 スキルシート/月
その他	• AI事業者のトークン単価改訂で変更の可能性あり • スキルシート追加解析は有償予定(検討中) • 説明会受講後、アクティベート

テクニケーションシード

資料

開発意図

機能デザイン・コンセプト

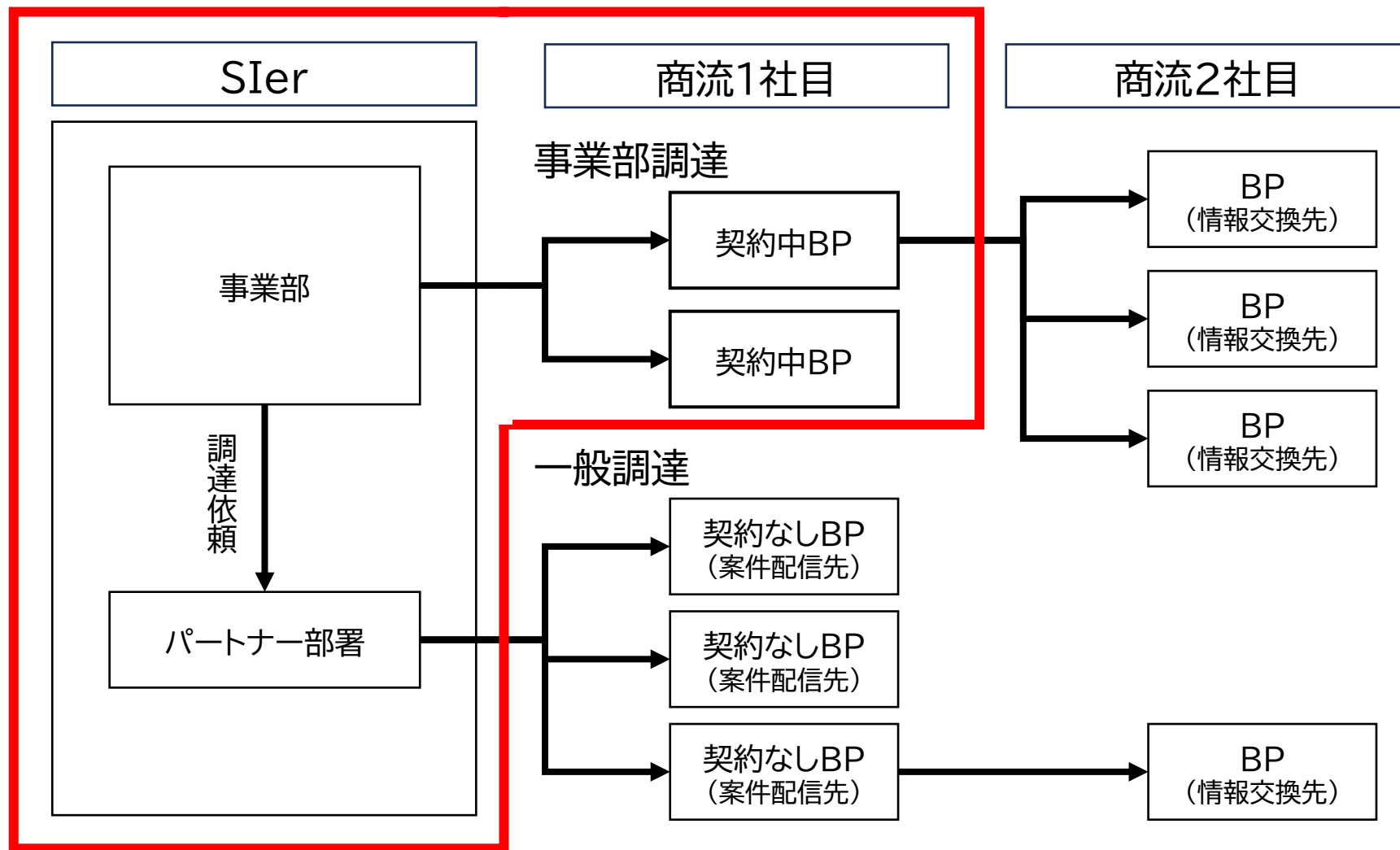
Results. 商流多層化の改善

- 担当者の処理上限を引き上げ、調達母数の不足による商流多層化を解消
- 調達母数の供給を付帯サービスとして提供
(案件人材メールを解析し、振り分け・正規化表示を行う業界初のプロダクト)

調達デスクトップ 調達業務の負担軽減

- 人材選定のコストが大きいために起こる 特定BPへの調達依存を軽減
- 「選定」の可視化と適正調達
- 人材の「選定」ができる(おそらく)業界初のプロダクト
(特許出願中: 2026- 79829)

導入先として想定している企業・部署



非対称機能にした理由

より多くの関係者が、より多くの利益を享受するためには、
健全な生態系(※)が必要

※ 優良企業のネットワーク



SESの調達は、40年以上に渡り支持された完全な仕組み
ただし、他産業に例がない非常に特殊な形態



調達デスクトップは、特殊形態を形成した要因のひとつである
調達業務の負担を軽減し、合理的な調達に寄与



案件側企業の「事業部に支持される仕組み」が必要
利用企業によるネットワーク形成

(スキル偽装・商習慣逸脱などの情報を収集する組織・仕組みを用意したいと考えている)

ご清聴ありがとうございました。

みなさまの「気づき」の機会となれば幸いです。